

令和 7 年度
入 学 試 験 問 題
— I 期 —

国 語

令和 7 年 1 月 19 日

い わ き 准 看 護 学 校

【一】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私は服を縫う母のかたわらで育った。

子供の頃いつも、母がミシンを使うそのアトリエで宿題を済ませ本を読み、おやつをつまみながら、妹とお喋りをした。母は子供たちの様子を眺め、時おりお喋りに参加するのだが、その間も休むことなく生地をいじり、チャコペンで印をつけ、使い込まれた重たい洋裁鋏でXと裁断していた。

母の洋裁用テーブルは、例えば仕付け糸は彼女が右手をふっと上げたら指に触れるちょうどその位置まで垂れるよう天井から吊りおろされていたり、五十センチ定規は左手でさっと取り上げられるよう足元の籠に立てかけられていたり、長年の経験をもつてカスタマイズしつくされている。自分専用のその空間で、母の手指はまるでゴキウするように自然に、繰り返された動線をたどりながら、黙々と服を縫い続けた。チャコペンや巻き尺や鋏を、彼女はそれらが必要とするタイミングで必要な箇所だけの確に用い、ミシンに向かえばトットトットと一定のリズムで針が下りる。どのミシンも私より少し年上で、不具合が出るたび修理に修理を重ねて使い続けてきた。母と離れて暮らすようになってから、彼女を思い出すとき、声や表情より先に、あの流れるように無駄のない動きが浮かぶ。

「Y」という言い方があるが、数え切れないほど反復された動作は、たしかに筋肉にこびりつくだろう。

記憶が染みついた体は、持ち主がどういいう人かを言葉少なに、けれども正確に教えてくれるから、私はつい見とれてしまう。ぱつと思いつくところでは、ファーストフード店のバイト長クラスの人の接客ぶり、部屋のうすい壁紙を繕えることなくぴたりと張り替えるクロス職人の作業、右手の親指で蓋を強く押さえつながら涼しい顔でシェーカーを振る無口なバーテンダーの手つき、馴染んだ鍋釜で素早く料理する主婦の手捌きなど。そういう動きには、同じようにやっつけていても上手下手があつて、上手な人の動きはやっぱり違うと思う。そこに至るまでの真摯な日々が透けて見える。

そういうのは、以前テレビでスーパーマーケットのレジ打ちコンテスト(正式には「チェックカーコンテスト」と呼ぶそう)の優勝者が腕前を披露していたが、その時もついつい画面の向こうに見入ってしまった。笑顔やリョウキンの読み上げといった接客態度の清々しさはもちろんのこと、剥がれかけていたり縫っていたりするバーコードシールの商品を手にした瞬間、その指先は感うことなく必要なだけの修正、シールを引き延ばすとか貼りなおすといったささやかなことであるが、それを瞬時にほどこしつ丁度良い角度でスキヤナーを通す。

こうした工夫を、おそらくは考えるより先に、彼女の指が成している。だから、どんな商品を手にしても、値段読み取りのリズムは変わらない。それで時給が何百円と変わるわけではないのだろうが、きつと、だからやるよりも、一定のペースを崩さずにちやちやきと籠を空けてゆくほうが彼女にとっても爽快なのだ。そして、そこに爽快さを見出せる人こそが、あるスペシヤルな域にまで達せるのだと思う。

(「記憶する体」(朝比奈あすか著)より)

*チャコペン||チャコペンシールの略。布に印をつける道具。

*シェーカー||カクテルを作る時、洋酒や水などを入れて混ぜ合わせる金属製の道具。

問一 二重傍線部a f のカタカナを漢字に直し、漢字にはひらがなで読みを答えなさい。

問二 空欄Xに入れるのに最も適切な擬音語を次から選び、記号で答えなさい。

- ㉠ りんりん ㉡ しやしやしき
㉢ ぱつぱつ ㉣ ぐつぐつ

問三 傍線部①の「動き」を最も具体的に示している一文を本文中から抜き出し、その最初の六字を答えなさい。

問四 空欄Yに入れるのに最も適切な語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 体が覚える イ 身のこなし
ウ 身が入る エ 手が先に出る

問五 傍線部②について、筆者は持ち主をどういう人だと推測しているか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人を見とれさせるようなスター性を持つ人。
イ 長い間体だけを使う仕事を任されてきた人。

ウ 長い間ひたむきに仕事に取り組んできた人。
エ 仕事のうまい下手はあっても動きが速い人。

問六 傍線部③の動作が可能な理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 仕事を丁寧にするよりも、一定のテンポでどんな仕事をこなすほうが爽快だから。
イ 修正の方法を即座に考えることのできる優れた能力の持ち主だから。
ウ 頭で考えてそれを瞬時に正確に体に伝えられる運動能力の高い人だから。

エ 指先が自然と動いて小さな修正までするというように、いちいち頭で考えていないから。

問七 母親とレジ打ちコンテストの優勝者の共通点として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 仕事を無駄なくこなしつつ、他のことも同時に行ったり考えたりできる点。
イ 反復された動作が記憶されて体にこびりつき、無駄のない動きで、爽快さを与えている点。
ウ 身のこなしが俊敏で、合理的に考え抜かれた環境を作り仕事をしている点。
エ 体に記憶が染みついてしまつて、何も考えない一定の動作を繰り返す行しかできない点。

問八 波線部P、Qの意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

P
ア 自分の使い方に合わせて変更すること
イ 自分に必要な条件だけを選ぶこと
ウ 勢いよく自然に行動すること
エ 自分の周囲を冷静に観察すること

Q
ア 臨時の
イ 独占の
ウ 専用の
エ 格別の

【二】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

夏もすぎ秋もたけ、^①稍冬枯の頃になりてある暖かなる日、蟻ども多く打あつたり、夏の日にとり取めたる餌を日に晒すとして、穴より引出し居たり。かかるところにいと飢つたかたたるきりぎりす蟻^②来て、命をつなぐためいささかの餌を分かち給はれと乞へり。其の時、古老の蟻ふりかへり見て、「如何様、御辺はきりぎりすよな。汝は夏中何をして暮らされしや。何故食に困らるや」と問へば、きりぎりす驕色に答へて、「此の夏はいと面白くこそありつれ。花に戯れ葉に眠り、口には露、身には羅衣、謡ひもし舞もしつ」といひもきらぬに蟻打笑ひ、「さらば合力は御無用なり。我等は夏の炎天に脊をさらして餌を運び、此の冬枯の用意をなしたり。故に今日の安心あり。永の夏中踏歌ひて徒に日を消りしものは、冬になりては飢^③べきはづなり。我は知らず」と答へけるとぞ。
夏に稼^④きし余徳は、冬になりて顕るものじやぞ。

(「通俗伊蘇物語」より)

*如何様||なるほど。そのとおり。
*御辺||そなた。貴殿。(二人称)

問一 二重傍線部A「給はれ」、B「ふりかへり」の読み方を、すべて現代かなづかいのひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①、③の訳として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

①「たけ」
ア 高くなつて
イ たけなわになつて
ウ 熟達して
エ 末に近づいて

③「驕色に」
ア 悲しげに
イ 得意げに
ウ 怒つたように
エ 恥ずかしげに

問三 傍線部②について、「きりぎりす」が「飢^うつかれ」ていたのはなぜか、最も適切な理由を次から選び、記号で答えなさい。

ア もともと冬を迎えることのない短命の虫であることを自覚しなかったから。

イ 冬の衣食を考えず、夏じゅうずっと踊り歌いして遊んでいたから。

ウ 蟻の真面目さを馬鹿にして、楽しさを重視していたから。

問四 傍線部④について、「古老の蟻」がここで答えた内容と合わないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弱ったきりぎりすに力を添えて助けるなど思いもしないということ。

イ 夏の楽しみを謳歌する生き方は、自分たちとは無縁だということ。

ウ 夏じゅう遊んでいた者が今頃生き残っているはずはないということ。

三 敬語には、ア尊敬語、イ謙譲語、ウ丁寧語の三つの用法があるが、次の傍線部は、それぞれ何に当たるか、記号で答えなさい。

① 図書館¹にいらつしやつた先生²にお目にかかった。

② お客³様にいた⁴だいたお菓子⁵を、妹と二人で食⁶べました。

③ 私が⁵申し上げたことを、すぐに実行⁶なさったのですね。

四 次の傍線部の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。

① 昨日から悪寒が続いている。

② 大雨になるらしいと危惧する。

③ 煮沸消毒をする。

④ 匿名の通報があった。

⑤ 砂糖が飽和状態で溶け残る。

⑥ 夜も遅くなり欠伸が出る。

五 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

① 六時にキシヨウする。

② 受付のケイジ板。

③ シュウシ態度を変えない。

④ インフルエンザのヨウセイ反応。

⑤ 丁寧^にケンサをする。

⑥ チュウシヨウ絵画を鑑賞する。

六 次の慣用句の空欄に入る語を後の語群から選び、記号で答えなさい。

① 君には（ ）がたたぬ。 ② （ ）をそろえて返す。

③ （ ）に物見せる。 ④ （ ）が上がらない。

⑤ （ ）を長くして待つ。 ⑥ （ ）を打つ。

語群（ア 目 イ 手 ウ 歯 エ 耳 オ 首 カ 頭）

七 次の空欄に入る語を後の語群から選び、四字熟語を完成させなさい。

① （ ）天白日 ② 千載（ ）遇

③ 大胆不（ ） ④ 単（ ）直入

⑤ 朝（ ）暮改 ⑥ 前代（ ）聞

語群（ア 刀 イ 一 ウ 未 エ 敵 オ 令 カ 青）